



# こくろうよなご

第6号

2025年11月10日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

## わがまま？とんでもない！

### 第1回組織対策会議を開催

11月1日、地方本部事務所にて第一回地本組織対策会議を開催してきました。  
会議では、組織活動の活性化・組織拡大など、向こう一年間の活動方針について参加者全体で確認してきました。

はじめに倉下執行委員長より、「分会の統廃合など組織再編を行った。関係者の皆さんに感謝申し上げたい。組織の形は出来たが、財政・組織運営が円滑に進むように引き続き取り組みをお願いしたい。職場の仲間に個別に話を聞くと不平・不満の声を結構聞くことがあり。わがままなどと切り捨てず、一緒に改善を進めることが組織の拡大へとつながる」など、挨拶を受けました。

その後、議題に入り、今年度の地本の組織対策委員会の設置を確認、毎月の組織活動報告の定例化、「つなぐ」の登録と活用についてなど意思統一をしてきました。



はじめに倉下執行委員長より、「分会の統廃合など組織再編を行った。関係者の皆さんに感謝申し上げたい。組織の形は出来たが、財政・組織運営が円滑に進むように引き続き取り組みをお願いしたい。職場の仲間に個別に話を聞くと不平・不満の声を結構聞くことがあり。わがままなどと切り捨てず、一緒に改善を進めることが組織の拡大へとつながる」など、挨拶を受けました。

その後、議題に入り、今年度の地本の組織対策委員会の設置を確認、毎月の組織活動報告の定例化、「つなぐ」の登録と活用についてなど意思統一をしてきました。

## 監視社会真っ平ごめん！

10月22日、米子コンベンションセンターにて護憲フォーラム主催で、「戦後80年に考える憲法と歴史認識（歴史修正主義の克服と）」のテーマによる講演会が開催されました。

講師は、明治大学で日本近現代史を専攻され、多くの著書を発行されている「山田朗」教授がリモートにて務められていました。

講演の内容が豊富で歴史をしっかりと学んでこなかった私には、こうして文書で報告することはなかなか難しいものがありましたが、私なりの理解の上で敢えて要約すればテーマにあるように「戦前・戦後の事実から、現代を生きる私たちが何を学ぶのか」ということだったと思います。

その中でも、戦争・植民地支配・そして、国内における治安維持を成し遂げた装置としての「暴力」という表現が使われていることがやけにリアルに私の心に迫ってきました。

拷問・虐殺という圧倒的な暴力を前に、国外では植

民地を広げ、国内では治安維持法などにより、国家に歯向かうものへの激しい弾圧が加えられてきました。

いつ、何をもって警察に拘留され、拷問されるかわからない、もし自分が、そういう時代に生きていたらと思うと、ぞっとします。

現在、いくつかの政党が「スパイ防止法」の制定を主張していますが、スパイという抽象的な表現で、いつの間にか国家に監視をされ、そうこうしているうちにお隣の住民同士が監視をしあう戦前のような息苦しい社会になることが危惧をされます。

また、戦争につながる強敵として、「記憶の忘却」と「歴史の修正・陰謀史観」があると言われていました。

戦後80年、戦争を直接経験した人がいなくなる中で、戦争の悲惨さを忘れず、歴史の塗り替えを許さない努力が求められています。

つつい楽な方へと走りがちな今日この頃ですが、もっと勉強しなくては、と思ひ帰路に付きました。

ではなく疑問や不満を持たれることも多いのではないかと感じます。そういう声に敏感になるためには、私たちが自身の態度をもっと上げなければなりません。私たち自身が今の職場環境に慣れきって、「はて？」と思うようなことでも、「まあいいか」と流してしまっているのではないのでしょうか。繰り返し、自分や仲間の働き方を点検しながら、職場改善、ひいては組織の拡大にも繋げていこうと意思統一し、会議を終えました。

## 何歳になっても挑戦者！

先日、数年ぶりに大山登山をした。普段からジョギングなどで多少鍛えているつもりであつたが、使う筋肉が違ふらしく予想以上にきつかった。

当日朝方は、かなり冷え込み風も結構吹いていたが、途中の5合目あたりからは雲もとれて登山の頃には、三瓶山が遠くに見えるほど澄み渡った晴天の景色が広がっていた。

頂上の山小屋では、あらかじめ準備をして頂いていたインスタント

トカレーとコーヒーをご馳走になり、頂上を後にした。

登山用具を持たないため、使い古しのジョギングシューズで歩き、リックも登山用ではないためバランスを崩したりと同行した方をひやひやさせることにもなった。

たまに新聞などで大山大で滑落の記事を目にするが、甘く見るとひどい目にあう山の怖さの一端を垣間見た気がした。

また、かなり年配と見受けられる登山客も



結構目についた。何歳になっても、好きなことにチャレンジする姿が羨ましくも感じた。

登山から数日後、前々から欲しかった登山靴とリックを「清水の舞台」から飛び降りる「気持ちで購入した。まずは、最低限の装備から！ シーズン中の再チャレンジを決意している！」